入札説明書

名古屋大学（医病）基幹整備（電灯設備）工事に係る入札公告（建設工事）に基づく一般競争入札については、関係法令に定めるもののほか、この入札説明書によるものとする。

１　公告日　　令和 8 年 10 月 27 日

２　国立大学法人東海国立大学機構
機構長　　松　尾　清　一

３　工事概要等

（１）　工事名　　名古屋大学（医病）基幹整備（電灯設備）工事

（２）　工事場所　愛知県名古屋市昭和区鶴舞町 65　名古屋大学鶴舞団地構内

（３）　工事概要　別冊図面及び別冊仕様書のとおり。

（４）　工　期　　令和 10 年 2 月 29 日まで。

（５）　本工事は、「企業の技術力」及び「企業の信頼性・社会性」について記述した、競争参加資格確認申請書（以下「申請書」という。）及び競争参加資格確認資料（以下「資料」という。）を受け付け、価格と価格以外の要素を総合的に評価して落札者を決定する総合評価落札方式（実績評価型）を実施する工事である。また、品質確保のための体制その他の施工体制の確保状況を確認し、施工内容を確実に実現できるかどうかについて審査し､評価を行う施工体制確認型総合評価落札方式の試行工事である。

（６）　本工事は、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（平成 12 年法律第 104 号）に基づき、分別解体等及び特定建設資材廃棄物の再資源化等の実施が義務付けられた工事である。

（７）　本工事においては、申請書の提出及び入札等を電子入札システムにより行う。電子入札は、文部科学省電子入札システムホームページ（https://portal.ebid03.mext.go.jp/top/）の電子入札システムにより、文部科学省電子入札の利用規定及び運用基準に基づき行う。なお、紙入札の申請に関しては、東海国立大学機構施設統括部施設企画課施設契約係に承諾願を提出して行うものとする。

４　競争参加資格

（１）　東海国立大学機構契約事務取扱細則第 3 条及び第 4 条の規定に該当しない者であること。

（２）　文部科学省における電気工事に係る A 等級の一般競争参加資格の認定を受けていること（会社更生法（平成 14 年法律第 154 号）に基づき更生手続開始の申立てがなされている者又は民事再生法（平成 11 年法律第 225 号）に基づき再生手続開始の申立てがなされている者については、手続開始の決定後、当該機構長が別に定める手続に基づく一般競争参加資格の再認定を受けていること。）。又は東海国立大学機構契約事務取扱細則第 5 条第 2 項の規定に基づき、東海国立大学機構が定める電気工事において

A 等級の資格を有する者であること。

（３） 会社更生法に基づき更生手続開始の申立てがなされている者又は民事再生法に基づき再生手続開始の申立てがなされている者（上記(２)の再認定を受けた者を除く。）でないこと。

（４） 下記６(３)に掲げる総合評価の評価項目に示す「同種工事の施工実績（項目：企業の施工能力）」、「工事成績（項目：企業の施工能力）」、「同種工事の施工経験（項目：配置予定技術者の能力）」、「工事成績（項目：配置予定技術者の能力）」の欠格に該当しないこと。

（５） 平成 23 年度以降に元請として完成・引渡しが完了した、病院建物における一般照明器具の新設又は取替の電気設備工事を施工した実績を有すること（共同企業体の構成員としての実績は、出資比率が 20%以上の場合のものに限る。）。

（６） 次に掲げる基準を満たす主任技術者又は監理技術者を当該工事に専任で配置できること。

① 建設業法で求める主任技術者又は監理技術者の資格を有する者であること。

② 平成 23 年度以降に、上記(５)に掲げる工事の経験を有する者であること（共同企業体の構成員としての経験は、出資比率が 20%以上の場合のものに限る。）。

③ 監理技術者にあっては、監理技術者資格者証及び監理技術者講習修了証を有する者であること。

④ 配置予定の主任技術者又は監理技術者にあっては直接的かつ恒常的な雇用関係が必要であるので、その旨を明示することができる資料を求めることがあり、その明示がなされない場合は入札に参加できないことがある。

⑤ 発注者の承諾を得た場合は、本工事における専任を要する期間中に名古屋大学鶴舞団地構内で施工している他の工事（入札手続き中の工事も含む。）と、本工事を一の工事とみなして、同一の監理技術者が当該複数工事全体を管理することができる。

（７） 申請書及び資料の提出期限の日から開札の時までの期間に、文部科学省又は東海国立大学機構から建設工事の請負契約に係る指名停止等の措置要領について(平成 18 年 1 月 20 日付け 17 文科施第 345 号文教施設企画部長通知）（以下「指名停止措置要領」という。）に基づく指名停止を受けていないこと。

（８） 上記３(１)に示した工事に係る設計業務等の受託者又は当該受託者と資本若しくは人事面において関連がある建設業者でないこと。

（９） 入札に参加しようとする者の間に以下の基準のいずれかに該当する関係がないこと（基準に該当する者のすべてが共同企業体の代表者以外の構成員である場合を除く。）。なお、上記の関係がある場合に、辞退する者を決めることを目的に当事者間で連絡をとることは、競争加入者心得第 13 第 2 項の規定に抵触するものではないことに留意すること。

① 資本関係

次のいずれかに該当する二者の場合。ただし、子会社又は子会社の一方が更生会社又は再生手続が存続中の会社である場合は除く。

（イ） 親会社と子会社の関係にある場合

（ロ） 親会社を同じくする子会社同士の関係にある場合

② 人的関係

次のいずれかに該当する二者の場合。ただし、(イ)については、会社の一方が更生会社又は再生手続が存続中の会社である場合は除く。

(イ) 一方の会社の役員が、他方の会社の役員を現に兼ねている場合

(ロ) 一方の会社の役員が、他方の会社の管財人を現に兼ねている場合

③ その他入札の適正さが阻害されると認められる場合

その他上記①又は②と同視し得る資本関係又は人的関係があると認められる場合。

(10) 東海・北陸地区内又は長野県内に建設業法に基づく許可を有する本店、支店又は営業所が所在すること。

(11) 警察当局から、暴力団員が実質的に経営を支配する建設業者又はこれに準ずるものとして、文部科学省発注工事等からの排除要請があり、当該状態が継続している者でないこと。

① 「暴力団員が実質的に経営を支配する建設業者」とは、「法人等（個人、法人又は団体をいう。）の役員等（個人である場合はその者、法人である場合は役員又は支店若しくは営業所（常時契約を締結する事務所をいう。）の代表者、団体である場合は代表者、理事等、その他経営に実質的に関与している者をいう。以下同じ。）が、暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下同じ。）又は暴力団員（同法第2条第6号に規定する暴力団員をいう。以下同じ。）であるとき」とし、その判断は警察当局にて行うものとする。

② 「これに準ずるもの」とは、次のいずれかに該当する者をいうものとし、その判断は警察当局にて行うものとする。

(イ) 役員等が、自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的、又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団員を利用するなどしているとき。

(ロ) 役員等が、暴力団又は暴力団員に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与しているとき。

(ハ) 役員等が、暴力団又は暴力団員であることを知りながら、これを不当に利用するなどしているとき。

(ニ) 役員等が、暴力団又は暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有しているとき。

③ 「当該状態が継続している者」については、該当事実の確認回数で判断するのではなく、実質的に当該状態が継続しているか否かで判断するものとし、その判断は警察当局で行うものとする。

5 設計業務等の受託者等

(1) 上記4(8)の「上記3(1)に示した工事に係る設計業務等の受託者」とは、次に掲げる者である。

株式会社総合設備コンサルタント

(2) 上記4(8)の「当該受託者と資本若しくは人事面において関連がある建設業者」と

は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和 38 年大蔵省令第 59 号）第 8 条に規定する親会社、子会社及び同一の親会社を持つ会社である。

6　総合評価に関する事項

（1）　落札者の決定方法

①　入札参加者は、「企業の技術力」、「企業の信頼性・社会性」及び「企業の施工体制」並びに「価格」をもって入札に参加し、次の(イ)、(ロ)の要件に該当する者のうち、下記(2)③によって得られる数値（以下「評価値」という。）の最も高い者を落札者とする。

(イ)　入札価格が予定価格の制限の範囲内であること。

(ロ)　評価値が、標準点を予定価格で除した数値（基準評価値）に対して下回らないこと。

②　①において、評価値の最も高い者が 2 人以上ある時は、くじを引かせて落札者を決定する。

（2）　総合評価の方法

①　「標準点」を 100 点、「加算点」は下記(3)の①「企業の技術力」及び②「企業の信頼性・社会性」の評価項目において、資料の内容に応じ最高 25 点を与える。「施工体制評価点」は下記(3)の③「企業の施工体制」の評価項目において、企業の施工体制に応じ、最高 30 点を与える。

②　「加算点」の算出方法は、下記（3）の評価項目毎に評価を行い、各評価項目の評価点数の合計を与える。「施工体制評価点」の算出方法は、下記(3)③の評価項目毎に評価を行い、企業の施工体制に応じ、施工体制評価点として付与するものとする。

③　総合評価は、入札参加者の「標準点」と②によって得られる「加算点」及び「施工体制評価点」の合計を、当該入札者の「入札価格」で除して得た「評価値」をもって行う。

・評価値＝（標準点＋加算点＋施工体制評価点）／入札価格

（3）　評価項目及び評価基準等

評価項目は以下のとおりとする。

総合評価落札方式（実績評価型）適用項目及び配点表

	項目	細目	評価基準	配点
①企業の技術力	企業の施工能力	同種工事の施工実績	・国、特殊法人等（注１）及び地方公共団体が発注する同種工事の実績あり	5.0 点
			・その他の発注者による同種工事の実績あり	3.0 点
			・同種工事の実績なし ［欠格］	欠格
		工事成績	当該工事種別の令和６年度（過去２年度）以降に完成した工事成績の平均 ※工事成績相互利用登録発注機関が発注した「公共建築工事成績評定要領作成指針」に基づく工事成績	
			・８３点以上	5.0 点
			・７８点以上８３点未満	3.0 点
			・７３点以上７８点未満	1.0 点
			・７３点未満（含実績無し）	0.0 点
			※各年度（過去2年度）の平均点が2年連続で65点未満 ［欠格］	欠格
			文部科学省、所管独立行政法人及び国立大学法人等に対し、令和６年度（過去2年度）以降に完成・引渡しを行った工事目的物で、引渡し後に工事の品質に関わる重大な問題が発生した事例がある	欠格
	配置予定技術者の能力	同種工事の施工経験	・国、特殊法人等（注１）及び地方公共団体が発注する同種工事において主任（監理）技術者又は現場代理人としての実績あり	5.0 点
			・その他の発注者による同種工事において、主任（監理）技術者又は現場代理人としての経験あり	3.0 点
			・同種工事において、主任（監理）技術者又は現場代理人以外での経験あり	1.0 点
			・同種工事の実績経験なし	欠格
		工事成績	同種工事の施工経験として挙げた工事について主任（監理）技術者又は現場代理人として従事した場合の工事成績（令和４年度（過去４年度）以降に完成した工事に限る） ※工事成績相互利用登録発注機関が発注した「公共建築工事成績評定要領作成指針」に基づく工事成績	
			・８３点以上	5.0 点
			・７８点以上８３点未満	3.0 点
			・７３点以上７８点未満	1.0 点
			・７３点未満（含実績無し）	0.0 点
			※６５点未満 ［欠格］	欠格
②企業の信頼性・社会性	法令遵守（ｺﾝﾌﾟﾗｲｱﾝｽ）	事故及び不誠実な行為	・あり 当該区域において、営業停止・指名停止が2週間～1か月 →期間終了後3か月以内に当該工事の入札執行日が該当する場合 当該区域において、営業停止・指名停止が1か月～2か月 →期間終了後4か月以内に当該工事の入札執行日が該当する場合 当該区域において、営業停止・指名停止が2か月～3か月 →期間終了後5か月以内に当該工事の入札執行日が該当する場合 当該区域において、営業停止・指名停止が３か月以上 →期間終了後6か月以内に当該工事の入札執行日が該当する場合	-2.0 点
			・なし	0.0 点
	地域精通度	地理的条件（緊急時の施工体制）	当該工事施工地域（愛知県内）に技術者・資機材等の拠点あり	3.0 点
			当該工事施工地域（愛知県内）に技術者・資機材等の拠点なし	0.0 点
	ワーク・ライフ・バランス等の推進	ワーク・ライフ・バランス等の取組に関する認定状況	・あり （ワーク・ライフ・バランス等の取組に関する以下のいずれかの認定の有無） ○女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）に基づく認定（えるぼし認定企業（※労働時間等の働き方に係る基準を満たすものに限る）・プラチナえるぼし認定企業）又は一般事業主行動計画策定済（常時雇用する労働者の数が100人以下のものに限る） ○次世代育成支援対策推進法（次世代法）に基づく認定（トライくるみん認定企業・くるみん認定企業･プラチナくるみん認定企業） ○青少年の雇用の促進等に関する法律（若者雇用促進法）に基づく認定（ユースエール認定））	2.0 点
			・なし ※外国法人については、内閣府によるワークライフ・バランス等推進企業認定等相当確認を受けていること。	0.0 点
合計				25.0 点

（注1）：「特殊法人等」には国が資本金の1/2以上を出資する法人を含む。

評価項目		評価基準及び評価方式	配点
③企業の施工体制	品質確保の実効性	優：工事の品質確保のための適切な施工体制が十分確保され、入札説明書等に記載された要求要件をより確実に実現できると認められる。	15.0 点
		良：工事の品質確保のための適切な施工体制が概ね確保され、入札説明書等に記載された要求要件を確実に実現できると認められる。	5.0 点
		可：その他	0.0 点
	施工体制確保の確実性	優：工事の品質確保のための施工体制のほか、必要な人員及び材料が確保されていることなどにより、適切な施工体制が十分確保され、入札説明書等に記載された要求要件をより確実に実現できると認められる。	15.0 点
		良：工事の品質確保のための施工体制のほか、必要な人員及び材料が確保されていることなどにより、適切な施工体制が概ね確保され、入札説明書等に記載された要求要件を確実に実現できると認められる。	5.0 点
		可：その他	0.0 点
合　　計			30.0 点

7　施工体制の審査に係るヒアリング

どのように施工体制を構築し、それが入札説明書等に記載された要求要件の実現確実性の向上につながるかを審査するため、原則として、予定価格の制限の範囲内の価格で申込みをしたすべての入札参加者に対して開札後速やかにヒアリングを実施する。なお、入札価格が低入札価格調査の最低基準価格（東海国立大学機構契約事務取扱細則第16条に基づく価格をいう。以下「最低基準価格」という。別紙「施工体制確認型総合評価落札方式について」のＩ１を参照のこと。）以上の者にあっては、電話によるヒアリングをすることがある。

（1）　日時　令和8年12月22日から令和8年12月23日まで

（2）　場所　下記８に同じ

（3）　資料の提出　入札参加者のうち、その申込みに係る価格が最低基準価格に満たない者に対しては、技術提案書に加え、ヒアリングのための追加資料の提出を求める。

追加資料を提出すべき旨の連絡は、下記12(３)の開札後、令和8年12月10日15時までに入札参加者あて連絡するものとし、その提出は持参又は郵送（上記期間内必着、書留郵便等の配達記録が残るものに限る。）により令和8年12月17日17時までとする。

なお、追加資料の提出後の修正及び再提出は認めない。

提出を求めることとなる追加資料は、別紙「施工体制確認型総合評価落札方式について」のＩ２のとおり。

また、最低基準価格に満たない者に対しては下記12(３)の開札後速やかに追加資料

の提出に対する意向の確認を求める場合がある。この際に、追加資料の提出の意向のない者については、下記 12(３)の開札後、追加資料の提出を行わない旨を令和８年 12 月 17 日 17 時までに下記８へ書面（様式自由）にて提出（持参又は郵送（上記期間内必着、書留郵便等の配達記録が残るものに限る。）とする。）するものとする。追加資料の提出を行わない旨の書面の提出があった者については、入札を無効として取り扱うものとする。

（４） その他入札参加者別のヒアリング日時については、追って連絡する。ヒアリングへの出席者には、配置予定技術者を必ず含め、資料の説明が可能な者をあわせ、最大で 3 名以内とする。下記①及び②に掲げる事項に該当する場合は、入札に関する条件に違反した入札として無効とすることがある。なお、天災・事故等やむを得ないと認められる事由により通知したヒアリング日時に出席できない場合は、その旨を申し出ること。

審査方法の概要は、別紙「施工体制確認型総合評価落札方式について」のＩ３のとおり。

① 追加資料の提出を行わない場合

（イ） 資料が特定できない（工事名及び宛名等の記載がない）場合

（ロ） 資料に代表者名及び代表者の押印がない場合（代表者には委任状により委任をうけた者を含む。）

（ハ） 資料の全部又は一部が未提出の場合

（ニ） 資料の全部又は主要な部分の記載がない場合

（ホ） 資料が指定された様式で提出されていない場合

（ヘ） 提出期限までに資料が未提出である場合（資料の一部提出は、提出とは認めない）

② ヒアリングに応じない場合

（イ） ヒアリング日時に出席しない場合（天災・事故等やむを得ないと認められる事由で、ヒアリング時刻前にその旨申し出た場合を除く。）

（ロ） 競争参加資格確認結果通知時に資格要件「有」の条件として発注者が指定した場合は当該配置予定技術者、それ以外の場合はヒアリング出席者として入札参加者が登録した配置予定技術者がヒアリングに出席しない場合（ただし、指定又は登録した複数の配置予定技術者のうち、少なくとも１名がヒアリングに出席した場合は、本無効要件には該当しない。）

（ハ） 入札参加者に所属していない者がヒアリングに出席した場合

８ 担当部局

〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町

国立大学法人東海国立大学機構 施設統括部施設企画課施設契約係

電話 052-789-5667・2118

メールアドレス s-keiyaku※t.thers.ac.jp（※を@に変更すること。）

９ 競争参加資格の確認等

（１） 本競争の参加希望者は上記４に掲げる競争参加資格を有することを証明するため、次に掲げるところに従い、申請書及び資料を提出し、機構長から競争参加資格の有無について確認を受けなければならない。

上記４(２)の認定を受けている者は、「一般競争（指名競争）参加資格認定通知書」の写しを提出すること。

上記４(２)の認定を受けていない者も次に掲げるところに従い申請書及び資料を提出することができる。この場合において、上記４(１)及び(３)から(11)までに掲げる事項を満たしているときは、開札の時において上記４(２)に掲げる事項を満たしていることを条件として競争参加資格があることを確認するものとする。当該確認を受けた者が競争に参加するためには、開札の時において上記４(２)に掲げる事項を満たしていければならない。

なお、期限までに申請書及び資料を提出しない者並びに競争参加資格がないと認められた者は、本競争に参加することができない。

① 提出期間：令和 8 年 10 月 27 日から令和 8 年 11 月 6 日までの行政機関の休日に関する法律（昭和 63 年法律第 91 号）第 1 条に規定する行政機関の休日その他の東海国立大学機構が定める休日（以下「休日」という。）を除く 9 時 00 分から 17 時 00 分まで（最終日の令和 8 年 11 月 6 日は、15 時 00 分まで）。

② 提出先 ：上記８に同じ。

③ 提出方法：申請書及び資料の提出は電子入札システムにより行う。ただし、発注者の承諾を得た場合は、上記８に持参又は郵送（上記期間内必着、書留郵便等の配達記録が残るものに限る。）により提出すること。なお、申請書の受付票は、申請書及び資料の受領を確認したものであり申請書及び資料の内容を確認したものではない。

（２） 申請書は、別記様式 1 により作成すること。

(３)資料は、次に掲げるところに従い作成すること。

なお、①の同種工事の施工実績及び③の配置予定の技術者の同種工事の施工経験については、平成 23 年度以降かつ申請書及び資料の提出期限の日までに、工事が完成し引渡しが済んでいるものに限り記載すること。

また、①の同種工事の施工実績及び③の配置予定の技術者の同種工事の施工経験として記載した工事に係る契約書等（契約書・CORINS 及び記載した工事の内容が判断できる平面図等の資料）の写しを提出すること。

① 同種工事の施工実績（別紙 1）

上記４(５)に掲げる資格があることを判断できる同種工事の施工実績並びに上記６(３)表中「同種工事の施工実績」に掲げる内容を判断できる同種工事の施工実績は同一の実績を記載することとし、記載する同種工事の施工実績の件数は 1 件でよい。

なお、上記６(３)表中の「特殊法人等」とは、公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律（平成 12 年法律第 127 号）第 2 条第 1 項により規定する法人をいう。

② 工事成績（別紙 2）

電気工事における工事成績（令和 6 年度以降に完成した工事に限る）の各年度の合計、工事成績を受けた工事の件数及び平均点を記載すること。併せて、記載した工事成績評定通知書の写しを提出すること。ただし、上記６（３）表中「工事成績」において、2 年連続で年度の平均点が 65 点未満である者は、入札に参加できない。なお、上記６（３）表中の「所管独立行政法人及び国立大学法人等」とは、別表 1 に記載する法人である。

また、工事成績評定通知書の写しについて、通知を受けた全ての電気工事（令和 6 年度以降に完成した工事に限る）の通知書が提出されなかった場合には、落札の取消し、契約の解除又は指名停止措置要領に基づく指名停止を行うことがある。

③　配置予定の技術者（別紙 3）

上記４（６）に掲げる資格があることを判断できる配置予定の技術者の資格、同種工事の施工経験及び申請時における他工事の従事状況等並びに上記６（３）表中「資格」、「同種工事の施工経験」に掲げる内容を判断できる資格、同種工事の施工経験は同一の技術者の資格及び経験を記載することとし、記載する同種工事の施工経験の件数は 1 件でよい。なお、配置予定の技術者として複数の候補技術者の資格、同種工事の施工経験及び申請時における他工事の従事状況等を記載することもできるが､その場合、各配置予定技術者とも競争参加資格の要件を満たすとともに、上記６（３）表中「配置予定技術者の能力」に係る最も低い技術者の評価点数の合計をもって評価するものとする（④を含む。）。

同一の技術者を重複して複数工事の配置予定の技術者とする場合において、他の工事を落札したことにより配置予定の技術者を配置することができなくなったときは、入札してはならず、申請書を提出した者は、直ちに当該申請書の取下げを行うこと。他の工事を落札したことにより配置予定の技術者を配置することができないにもかかわらず入札した場合においては、指名停止措置要領に基づく指名停止を行うことがある。

また、併せて配置予定技術者の資格を有することが確認できる資料（免許等の写し）、工事を請け負う企業との直接的かつ恒常的な雇用関係の有無が確認できる資料、同種工事の経験として記載した工事の内容が判断できる資料（契約書、平面図等の写し等）及び当該技術者が従事したことを判断できる資料を提出すること。

なお、上記６（３）表中の「特殊法人等」とは、公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律（平成 12 年法律第 127 号）第 2 条第 1 項により規定する法人をいう。

④　配置予定技術者の工事成績（別紙 4）

主任（監理）技術者又は現場代理人として従事した上記４（５）に掲げる同種工事の工事成績（令和 4 年度以降に完成した工事に限る）に係る成績の各年度の合計、工事成績を受けた工事の件数及び平均点を記載すること。

ただし、上記６（３）表中「工事成績（項目：配置予定技術者の能力）」において、平均点が 65 点未満である者は、入札に参加できない。なお、上記６（３）表中の「所管独立行政法人及び国立大学法人等」とは、別表 1 に記載する法人である。

また、工事成績評定通知書の写しについて、主任（監理）技術者又は現場代理人と

して従事した上記４（５）に掲げる同種工事の工事成績（令和４年度以降に完成した工事に限る）で、通知を受けた全ての工事の通知書が提出されなかった場合には、落札の取消し、契約の解除又は指名停止措置を行うことがある。

⑤　事故及び不誠実な行為（別紙 5）

全国又は東海・北陸地区において、文部科学省又は東海国立大学機構から指名停止措置要領に基づく指名停止を受けたもの及び愛知県を区域に含む営業停止を受けたもので、本工事の開札の日を基準として、指名停止措置要領に基づく指名停止の期間終了後６か月以内（令和８年６月８日以降に終了）のものを全て記載すること。また、通知書の写しを全て添付すること。

⑥　地理的条件（緊急時の施工体制）（別紙 5）

愛知県内における技術者・資機材等の拠点（本店、支店、技術者が常駐している拠点等）の有無について記載し、「有」の場合は、このことを証明できる資料を添付すること。

⑦　ワーク・ライフ・バランス等の推進（別紙 6）

ワーク･ライフ･バランス等の取組に関する下記認定の有無について記載すること。当該認定を有する場合は、同認定を受けていることを証する書類を添付すること。

〇女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）に基づく認定（えるぼし認定企業（※労働時間等の働き方に係る基準を満たすものに限る）・プラチナえるぼし認定企業）又は一般事業主行動計画策定済（常時雇用する労働者の数が 100 人以下のものに限る）

〇次世代育成支援対策推進法（次世代法）に基づく認定（トライくるみん認定企業･くるみん認定企業･プラチナくるみん認定企業）

〇青少年の雇用の促進等に関する法律（若者雇用促進法）に基づく認定（ユースエール認定）

〇外国法人については、内閣府によるワーク・ライフ・バランス等推進企業認定等相当確認を受けていること。

⑧　設計業務等の受託者との関連（別記様式 4）

上記５に基づき、作成すること。

（４）　競争参加資格の確認は、申請書及び資料の提出期限の日をもって行うものとし、その結果は令和８年 11 月 16 日までに電子入札システム（紙により申請した場合は書面を電子メール）により通知する。

（５）　その他

①　申請書及び資料の作成及び提出に係る費用は、提出者の負担とする。

②　機構長は、提出された申請書及び資料を、競争参加資格の確認以外に提出者に無断で使用しない。

③　提出された申請書及び資料は、返却しない。

④　提出期限以降における申請書及び資料の差し替え及び再提出は認めない。

⑤　申請書及び資料に関する問い合わせ先　　上記８に同じ。

10　競争参加資格がないと認めた者に対する理由の説明

（１） 競争参加資格がないと認められた者は、機構長に対して競争参加資格がないと認めた理由について、次により説明を求めることができる。

① 提出期限：令和８年 11 月 16 日から令和８年 11 月 24 日までの休日を除く９時 00 分から 17 時 00 分まで（最終日の令和８年 11 月 24 日は、15 時 00 分まで。）。

② 提出先　：上記８に同じ。

③ 提出方法：書面は持参により提出するものとする。ただし、発注者の承諾を得た場合は、郵送（上記期間内必着、書留郵便等の配達記録が残るものに限る。）により提出すること。

（２） 機構長は、説明を求められたときは、令和８年 12 月１日までに説明を求めた者に対し回答する。

11　入札説明書に対する質問

（１） この入札説明書に対する質問がある場合においては、次により提出すること。

① 提出期間：令和８年 11 月 16 日から令和８年 11 月 24 日までの休日を除く９時 00 分から 17 時 00 分まで（最終日の令和８年 11 月 24 日は、15 時 00 分まで。）。

② 提出先　：上記８に同じ。

③ 提出方法：電子データ（word、excel 等編集可能な形式）にて、「８　担当部局」に記載のメールアドレス宛に提出するものとする。

（２） （１）の質問に対する回答書は電子メールで回答するとともに、次のとおり閲覧に供する。

① 期　　間：令和８年 11 月 27 日から令和８年 12 月１日までの休日を除く９時 00 分から 17 時 00 分まで。

② 場　　所：上記８に同じ。

12　入札及び開札の日時及び場所等

（１） 入札日時：令和８年 12 月７日９時 00 分から 15 時 00 分まで

（２） 入札場所：〒464-8601　愛知県名古屋市千種区不老町
東海国立大学機構施設統括部施設企画課（電子入札システム）

（３） 開札日時：令和８年 12 月８日９時 30 分

（４） 開札場所：上記（２）に同じ。

（５） その他　：紙入札方式による競争入札の執行に当たっては、機構長により競争参加資格があることが確認された旨の通知書の写しを持参すること。

13　入札方法等

（１） 入札書は、電子入札システムにより提出すること。ただし、機構長の承諾を得た場合は、持参すること。郵送又はファクシミリによる入札は認めない。

（２） 落札決定に当たっては、入札書に記載された金額に当該金額の 100 分の 10 に相当する額を加算した金額（当該金額に１円未満の端数があるときは、その端数金額を切

り捨てた金額）をもって落札価格とするので、入札者は、消費税及び地方消費税に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、見積もった契約希望金額の 110 分の 100 に相当する金額を入札書に記載すること。

（３） 入札執行回数は、原則として 2 回を限度とする。

14 入札保証金及び契約保証金

（１） 入札保証金 免除。ただし、落札者が契約の締結をしないときは、違約金として落札金額の 100 分の 5 に相当する金額を国立大学法人東海国立大学機構に支払わなければならない。

（２） 契約保証金 契約金額の 100 分の 10 以上の契約保証金又はこれに代わる担保を納付又は提供すること。ただし、保険会社との間に機構長を被保険者とする履行保証保険契約（契約額の 100 分の 10 以上）を締結し、その証書を提出する場合又は保険会社と公共工事履行保証契約（契約額の 100 分の 10 以上）を締結し、その証書を提出する場合は、契約保証金の納付を免除する。

15 工事費内訳書の提出

（１） 第 1 回の入札に際し、第 1 回の入札書に記載される入札金額に対応した工事費内訳書の提出を求める。入札書に工事費内訳書ファイルを添付して同時に送付すること。

（２） 工事費内訳書の様式は自由であるが、記載内容は最低限、数量、単価、金額等を明らかにすること。また、工事費内訳書には住所、名称又は商号及び代表者の氏名並びに工事名を記載すること。

（３） 提出された工事費内訳書については、機構長（その補助者を含む。）が説明を求めることがある。また、工事費内訳書が別表 2 各項に該当する場合については、競争加入者心得第 30 第 12 号に該当する入札として、当該工事費内訳書提出者の入札を無効とする場合がある。

（４） 発注者の承諾を得て、入札参加者が紙による入札を行う場合には、工事費内訳書は表封筒と入札書を入れた中封筒の間に入れて、表封筒及び中封筒に各々封緘をして提出すること。

（５） 工事費内訳書は、参考図書として提出を求めるものであり、入札及び契約上の権利義務を生じるものではない。

（６） 施工体制確認型総合評価落札方式を行う場合、工事費内訳書は、価格以外の要素が提示された技術提案書の参考図書として提出を求めるものであり、入札書と同時に、入札書に記載される入札金額に対応した工事費内訳書が提出されないときは、第 1 回の入札書に記載される入札金額に対応した工事費内訳書の提出が上記（1）に違反して行われず、競争加入者心得第 30 第 12 号に該当するものとして入札を無効とする場合を除き、価格以外の要素として提示された性能等の審査を行うことなく施工体制評価点を 0 点とする。

16 開札

開札は、電子入札システムにより行うこととし、入札事務に関係のない職員を立ち会

わせて行う。

また、入札参加者が紙による入札を行う場合には、当該紙による入札参加者は開札時に立ち会うこと。

1 回目の開札に立ち会わない紙による入札参加者は、再度入札を行うこととなった場合には再度入札を辞退したものとして取り扱う。

17　入札の無効

入札公告に示した競争参加資格のない者のした入札、申請書又は資料に虚偽の記載をした者のした入札並びに別冊現場説明書及び別冊競争加入者心得において示した条件等入札に関する条件に違反した入札は無効とし、無効の入札を行った者を落札者としていた場合には落札決定を取り消す。

なお、機構長により競争参加資格のある旨確認された者であっても、開札の時において上記４に掲げる資格のないものは競争参加資格のない者に該当する。

18　落札者の決定方法

（１）　東海国立大学機構契約事務取扱細則第 10 条の規定に基づいて作成された予定価格の制限の範囲内で最高の評価値をもって有効な入札を行った者を落札者とする。ただし、落札者となるべき者の入札価格によっては、その者により当該契約の内容に適合した履行がなされないおそれがあると認められるとき、又はその者と契約を締結することが公正な取引の秩序を乱すこととなるおそれがあって著しく不適当であると認められるときは、予定価格の制限の範囲内の価格をもって入札した他の者のうち最高の評価値をもって入札した者を落札者とすることがある。

（２）　落札者となるべき者の入札価格が最低基準価格を下回る場合は、東海国立大学機構契約事務取扱細則第 17 条の調査（低入札価格調査）を行うものとする。

なお、最低基準価格の詳細については別紙「施工体制確認型総合評価落札方式について」のＩ１を参照すること。

19　最低基準価格を下回った場合の措置

最低基準価格を下回って入札が行われた場合は、入札を「保留」とし、契約の内容が履行されないおそれがあると、認めるか否かについて、入札者から事情聴取、関係機関への意見照会等の調査を行い、落札者の決定をする。この調査期間に伴う当該工事の工期延期は行わない。また、この調査期間中に履行不可能の申し出があった場合は、原則、指名停止措置要領に基づく指名停止を行うものとする。

20　配置予定監理技術者の確認

落札者決定後、CORINS 等により配置予定の主任技術者又は監理技術者の専任制違反の事実が確認された場合には、契約を結ばないことがある。なお、病休･死亡･退職等極めて特別な場合でやむを得ないとして承認された場合の外は、申請書及び資料の差替えは認められない。病気等特別な理由により、やむを得ず配置技術者を変更する場合は、上記４（６）に掲げる基準を満たし、かつ当初の配置予定技術者と同等以上の者を配置しな

ければならない。

21　契約書作成の要否等

別冊工事請負契約書（案）により、契約書を作成するものとする。

22　支払条件

請負代金（前払金及び中間前払金を含む。）は、受注者からの適法な支払請求書に基づき3回以内に支払うものとする。ただし、前払金は、請負代金額が2,000万円以上であって、かつ、工期が3か月を超える場合に限り、中間前払金は、請負代金額が5,000万円以上であって、かつ、工期が6か月を超える場合に限り請求できるものとする。

23　工事保険

受注者は、工事の目的物及び工事材料について組立保険契約（共済その他これに準じる機能を有するものを含む。）をするものとする。

24　非落札理由の説明

（1）　非落札者のうち、落札者の決定結果に対して不服がある者は、落札者決定の公表を行った日の翌日から起算して5日（休日を除く。）以内に、機構長に対して非落札理由について説明を求めることができる。

①　提出先　：上記８に同じ。

②　提出方法：持参又は郵送（上記期間内必着、書留郵便等の配達記録が残るものに限る。）により提出するものとする。

（2）　機構長は、説明を求められたときは、説明を求めることができる最終日から起算して5日（休日を除く。）以内に、書面により回答する。

25　再苦情申立て

機構長からの競争参加資格がないと認めた理由の説明又は非落札理由に不服がある者は、上記10(2)又は上記24(2)の回答を受けた日の翌日から起算して7日（休日を除く。）以内に書面により機構長に対して、再苦情の申立てを行うことができる。当該再苦情申立については、入札監視委員会が審議を行う。

書面は、持参又は郵送（上記期間内必着、書留郵便等の配達記録が残るものに限る。）により提出するものとする。

提出場所及び再苦情申立に関する手続等を示した書類等の入手先は、上記８に同じ。

26　関連情報を入手するための照会窓口

上記８に同じ。

27　手続における交渉の有無　　無

28　対象工事に直接関連する他の工事の請負契約を、対象工事の請負契約の相手方との随

意契約により締結する予定の有無　　無

29　その他

（1）　契約の手続において使用する言語及び通貨は、日本語及び日本国通貨に限る。

（2）　入札参加者は、別冊競争加入者心得及び別冊工事請負契約書（案）を熟読し、競争加入者心得を遵守すること。

（3）　申請書又は資料に虚偽の記載をした場合においては、申請書を無効とするとともに指名停止措置要領に基づく指名停止を行うことがある。

（4）　提出した入札書の引換え、変更、取消しをすることはできないので、十分に確認して入札すること。また、落札決定後、落札者が契約を結ばないときは、原則、指名停止措置要領に基づく指名停止を行うものとする。

（5）　第1回目の入札が不調になった場合は、再度入札に移行する。再度入札の日時については、電子入札及び紙入札が混在する場合があるため、発注者から指示する。発注者から再入札通知書を送信するので、パソコンの前で待機すること。開札処理に時間を要する場合は、発注者から連絡する。

（6）　落札となるべき同じ評価値の入札をした者が2人以上あるときは、くじへ移行する。くじの日時については、発注者から連絡する。

（7）　落札者は、資料に記載した配置予定の技術者を当該工事の現場に配置すること。ただし、請負代金額が建設業法施行令第27条第1項において定める金額を下回った場合は、専任での配置は要しないものとする。

（8）　本工事は、数量公開の対象工事であり、予定価格のもととなる工事費内訳書等から単価及び金額等を削除するなど加工・編集を施したもの（以下「数量書」という。）を、参考資料（参考数量）として公開、提供する。数量書は、見積を行うために必要な図面及び仕様書の交付と同時に公開し、その提供方法は入札説明書の交付と同様とする。

この数量書に対する質問がある場合においては、次により提出するものとする。

なお、入札説明書等に対する質問書と数量書に対する質問書は区別して提出するものとする。

また、数量書に対する質問において、数量の差異等に係わる質問については、差異の根拠となる数量を算出した過程を示す資料も併せて提出するものとする。

①　提出期間：令和8年11月16日から令和8年11月24日までの休日を除く9時00分から17時00分まで（最終日の令和8年11月24日は、15時00分まで。）。

②　提出先　：上記８に同じ。

③　提出方法：電子データ（word、excel等編集可能な形式）にて、「８　担当部局」に記載のメールアドレス宛に提出するものとする。

④　回答期間：令和8年11月27日から令和8年12月1日までの休日を除く9時00分から17時00分まで。

⑤　回答場所：数量書に対する質問書への回答は、電子メールで回答するとともに、上記８にて閲覧に供する。

（９） 入札説明書等を入手した者は、これを本入札手続以外の目的で使用してはならない。
(10) 障害発生時及び電子入札システム操作等の問合せ先は下記のとおりとする。
① システム操作・接続確認等の問合せ先
文部科学省電子入札システムヘルプデスク　電話：0570-001184
② IC カードの不具合等発生の問合せ先
取得している IC カードの認証機関
ただし、申請書又は応札等の締め切り時間が切迫しているなど、緊急を要する場合は、上記８に連絡すること。

別表 1

「所管独立行政法人及び国立大学法人等」について

各国立大学法人	
大学共同利用機関法人	
人間文化研究機構	自然科学研究機構
高エネルギー加速器研究機構	情報・システム研究機構
国立研究開発法人日本原子力研究開発機構	独立行政法人国立青少年教育振興機構
独立行政法人国立女性教育会館	独立行政法人国立科学博物館
独立行政法人国立美術館	独立行政法人国立文化財機構
国立研究開発法人科学技術振興機構	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構
独立行政法人日本スポーツ振興センター	独立行政法人日本芸術文化振興会
独立行政法人日本学生支援機構	独立行政法人国立高等専門学校機構 （各高等専門学校）
独立行政法人国立特別支援教育総合研究所	独立行政法人大学入試センター
国立研究開発法人物質・材料研究機構	国立研究開発法人防災科学技術研究所
国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構	独立行政法人教職員支援機構
独立行政法人日本学術振興会	国立研究開発法人理化学研究所
国立研究開発法人海洋研究開発機構	独立行政法人大学改革支援・学位授与機構
公立学校共済組合	日本私立学校振興・共済事業団
文部科学省共済組合	放送大学学園

※上記は、現行の法人ですが、統合等以前の法人が発注した工事の実績についても含みます。

別表２

工事費内訳書の確認事項

１.未提出であると認められる場合(未提出であると同視できる場合を含む)	（１）	内訳書の全部又は一部が提出されていない場合
	（２）	内訳書とは無関係な書類である場合
	（３）	他の工事の内訳書である場合
	（４）	白紙である場合
	（５）	内訳書が特定できない場合
	（６）	他の入札参加者の様式を入手し、使用している場合
２.記載すべき事項が欠けている場合	（１）	内訳書の記載が全くない場合
	（２）	入札説明書又は指名通知書に指示された項目を満たしていない場合
３.添付すべきでない書類が添付されていた場合	（１）	他の工事の内訳書が添付されていた場合
４.記載すべき事項に誤りがある場合	（１）	発注者名に誤りがある場合
	（２）	発注案件名に誤りがある場合
	（３）	提出業者名に誤りがある場合
	（４）	内訳書の合計金額が入札金額と大幅に異なる場合
５．その他未提出又は不備がある場合		

施工体制確認型総合評価落札方式について

Ⅰ　施工体制確認型総合評価落札方式

1　最低基準価格

東海国立大学機構契約事務取扱細則第 16 条に基づく価格（以下「最低基準価格」という。）を下回る価格で入札を行った者に対し、同細則第 17 条の調査（低入札価格調査）を実施する。

ここで、最低基準価格は、予定価格算出の基礎となった次に掲げる額の合計額に、100 分の 110 を乗じて得た額とする。ただし、その額が予定価格に 10 分の 9.2 を乗じて得た額を超える場合にあっては予定価格に 10 分の 9.2 を乗じて得た額とし、予定価格に 10 分の 7.5 を乗じて得た額に満たない場合にあっては予定価格に 10 分の 7.5 を乗じて得た額とする。

（１）　統一基準における直接工事費の額に 10 分の 9.63 を乗じて得た額
（２）　統一基準における共通仮設費の額に 10 分の 9 を乗じて得た額
（３）　統一基準における現場管理費の額に 10 分の 9 を乗じて得た額
（４）　統一基準における一般管理費等の額に 10 分の 6.8 を乗じて得た額

※統一基準とは、公共建築工事積算基準（統一基準）を指す。

2　ヒアリングのための追加資料

（１）　入札参加者の申込みに係る価格が記１の最低基準価格に満たないときは、次の様式の提出を求めるものとする。(「低入札価格調査対象工事に係る特別重点調査の試行について」（平成 21 年 3 月 31 日大臣官房文教施設企画部長通知）別添 1「特別重点調査資料等作成要領」に基づき作成の上、提出すること。ただし、同要領中「支出負担行為担当官」を「機構長」に読み替えるものとする。なお、添付書類の提出は不要。）

・下請予定業者等一覧表（様式４）
・配置予定技術者名簿（様式５）
・資材購入予定先一覧（様式８－２）
・機械リース元一覧（様式９－２）
・労務者の確保計画（様式 10－１）
・工種別労務者配置計画（様式 10－２）
・建設副産物の搬出地（様式 11）
・建設副産物の搬出及び資材等の搬入に関する運搬計画書（様式 12）
・品質確保体制（品質管理のための人員体制）（様式 13－１）
・品質確保体制（品質管理計画書）（様式 13－２）
・品質確保体制（出来形管理計画書）（様式 13－３）
・安全衛生管理体制（安全衛生教育等）（様式 14－１）
・安全衛生管理体制（点検計画）（様式 14－２）

・施工体制台帳（様式 16）

（２）　ＶＥ提案等の内容に基づく施工を行うことによりコスト縮減の達成が可能となる場合は、コスト縮減額の算定根拠として次の様式を提出するものとする。

なお、これらの提出がない場合には、当該コスト縮減に関する評価を行わない。

・積算内訳書（兼）コスト縮減額算定調書①（様式２－１）

・内訳書に対する明細書（兼）コスト縮減額算定調書②（様式２－２）

・ＶＥ提案等によるコスト縮減額調書（様式３）

３　審査方法の概要

施工体制に関する審査は、技術提案書、入札説明書７の施工体制確認のためのヒアリング、上記２（１）の追加資料及び工事費内訳書等をもとに、次の各項目について行う。なお、上記２（１）の追加資料の提出をしない場合及びヒアリングに応じない場合には、入札に関する条件に違反したものとしてその者の入札を無効とすることがある。

（１）　入札説明書等に記載された要求要件を実現できること

入札価格の範囲内において入札説明書等に記載された要求要件が実現できるかを審査する。審査の結果、要求要件が実現できないと認めるときは、技術提案を採用せず、標準点、施工体制評価点及び加算点は与えないものとする。

（２）　品質確保の実効性

入札価格の範囲内において、どのように工事の品質確保のための体制づくりを行い、それが入札説明書等に記載された要求要件の実現に係る確実性の向上につながるかについて審査する。

入札参加者の申込みに係る価格が上記１の最低基準価格以上であるときは、審査項目に関する体制が必ずしも十分に構築されないと認める事情がある場合に限り、品質確保の実効性に係る施工体制評価点を満点から減点する。

入札参加者の申込みに係る価格が上記１の最低基準価格を満たさないときは、工事品質確保について契約の内容に適合した履行がされないこととなるおそれがあることから、次の審査項目に関する体制が構築されると認める場合に限り、その程度に応じて品質確保の実効性に係る施工体制評価点を加点する。

【審査項目】

①　建設副産物の受入れ、過積載防止等の法令遵守の対応を確実に行うことが可能と認められるか（様式 11、様式 12）

②　安全確保の体制が構築されると認められるか（様式 14－１、様式 14－２）

③　その他工事の品質確保のための体制が構築されると認められるか（様式 13－１、様式 13－２、様式 13－３）

（３）　施工体制確保の確実性

入札価格の範囲内において、品質確保のための体制のほか、どのように施工体制づくりを行い、それが入札説明書等に記載された要求要件の実現に係る確実性の向上につながるかについて審査する。

入札参加者の申込みに係る価格が上記１の最低基準価格以上であるときは、審査項目に関

する体制が必ずしも十分に構築されないと認める事情がある場合に限り、施工体制確保の確実性に係る施工体制評価点を満点から減点する。

入札参加者の申込みに係る価格が上記１の最低基準価格を満たないときは、施工体制確保について契約の内容に適合した履行がされないこととなるおそれがあることから、次の審査項目に関する体制が構築されると認める場合に限り、その程度に応じて施工体制確保の確実性に係る施工体制評価点を加点する。

【審査項目】

① 下請会社、担当工種、工事費内訳書等を勘案し、施工体制が確実に構築されると認められるか（様式４、様式 16）

② 施工計画を実施するための資機材の調達、労務者の確保計画等を勘案し、施工体制が確実に構築されると認められるか（様式８－２、様式９－２、様式 10－１、様式 10－２）

③ 配置予定技術者が必要な資格を有しており、その配置が確実と認められるか（様式５）

Ⅱ　東海国立大学機構契約事務取扱細則第 17 条の規定に基づく調査について

１　最低基準価格を下回る入札が行われた場合には、入札者に対して「保留」と宣言し、東海国立大学機構契約事務取扱細則第 17 条の規定に基づき調査（低入札価格調査）を実施する。ここで、最低基準価格は、上記Ⅰ１に記載するとおりである。

２　低入札価格調査においては、次のような内容につき、入札者からの事情聴取、関係機関への照会等の調査を行う。

（１）　その価格により入札した理由
（２）　契約対象工事附近における手持工事の状況
（３）　契約対象工事に関連する手持工事の状況
（４）　契約対象工事箇所と入札者の事務所、倉庫等との関連（地理的条件）
（５）　手持資材の状況
（６）　資材購入先及び購入先と入札者の関係
（７）　手持機械数の状況
（８）　労務者の具体的供給見通し
（９）　過去に施工した公共工事名及び発注者
(10)　経営内容
(11)　（１）から(10)までの事情聴取した結果についての調査確認
(12)　（９）の公共工事の成績状況
(13)　経営状況（取引金融機関、保証会社等への照会を行う。）
(14)　信用状況（建設業法違反の有無、賃金不払いの状況、下請代金の支払遅延状況、その他）
(15)　その他必要な事項